

トヨタ車体、ダカールラリー2016で市販車部門3連覇！

～たくさんのご声援ありがとうございました～

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 取締役社長 ^{いわせたかひろ} 岩瀬隆広 以下、トヨタ車体）のラリーチームである Team Land Cruiser TOYOTA AUTO BODY（チームランドクルーザー・トヨタオートボデー 以下、TLC）は、2016年1月2日から1月16日（現地時間）に開催された「ダカールラリー2016 アルゼンチン～ポリビア」に、ランドクルーザー200 シリーズをベースとしたラリー仕様車 2 台で参戦し、ガソリンクラス・ディーゼルクラスを含めた市販車部門において、1位（ゼッケン 343 号車）になり、3連覇を成し遂げました。

	ドライバー/ナビゲーター	市販車部門*1	ディーゼルクラス*2	総合順位
343号車	ジボン・ニコラ / ジャン・ピエール・ギヤルサン	1位	1位	32位
342号車	^{みうら あきら} 三浦 昂*3 / ローラン・リットロイター	5位	5位	48位

*1 市販車部門（ガソリンクラスとディーゼルクラスをあわせたカテゴリー）

*2 TLCは、市販車部門ディーゼルクラスに参戦

*3 トヨタ車体社員（総務部広報室）ドライバー

今大会では、1995年のダカールラリー初参戦以来、初となる社員ドライバーを起用するとともに、ラリー車開発を専属で担当する社員エンジニアを加えた、新たなチーム、新たなチームワークで参戦。レースでは343号車が路面の溝に落ち車両のフロント部分を壊すアクシデントなどに見舞われたものの、社員エンジニアやメカニックによるチーム一丸となったサポートと、得意とする後半戦の砂丘ステージで驚異的な追い上げを図り、見事優勝しました。また、342号車も社員ドライバーの三浦が、完走率59%（4輪）の過酷なレースを、堅実な走りで完走し、社員の一層の凝集力につながるとともに、チャレンジし目標に向かって努力することでダカールラリーをゴールすることができることを証明しました。

トヨタ車体は、世界一過酷なラリーと言われるダカールラリーに挑戦し続けることで、そこで得られたノウハウや育った人材を「もっといいクルマづくり」に活かすとともに、ランドクルーザーファンやラリーファンの皆様に笑顔とチャレンジする大切さ、元気をお届けしてまいります。

【今大会の概要】

今大会の総走行距離は悪天候により一部区間が短縮されたことから約8,300km。内、競技区間は2015年大会と比べて500km短縮された約4,300kmのコース設定でしたが、コースの難易度は更に増し、高いドライビングスキルとナビゲーションスキル、最高レベルの車両の走破性や耐久性が求められるラリーとなりました。

アルゼンチンのコースでは、標高4,700mのアンデス山脈をはじめとする山岳地帯とその麓の平原を舞台とし、砂利や岩など、凹凸の激しい硬い路面や、ダカールラリー史上最長の砂丘ステージが設定されました。ポリビアでは、昨年に続いてメカニックのサポート・整備が禁止されるマラソンステージ(*4)が盛り込まれた非常に難しいステージが設定されました。

*4 キャンプ地でメカニックのサポートが受けられず、ドライバー・ナビゲーターが車載の部品と工具のみで自ら車両の整備を実施するステージ。今大会では、より厳しい設定となり、ドライバーとナビゲーターによる車両整備が翌日のスタート以降でしかできなかった。

【バイオディーゼル燃料（以下、BDF*5）での参戦】

植物性油から精製したBDFでの参戦を続けることでサステナブルな取り組みが広がっていくことを期待し、2011年大会以降、今大会においても2台のランドクルーザー200シリーズにBDFを100%使用。NRJ部門（環境に配慮した代替エネルギーを使用したクルマの部門）において、6年連続の優勝を果たしました。

*5 当社のラリー参戦活動に賛同して下さった小中学校をはじめとする近隣地域の方々、TLCスポンサー企業各社様ならびに当社社員などから提供を受けた廃食油に加え、今回から新たに（株）デンソーにて開発された藻油を原料とし精製した燃料

【ラリーで得られた成果を市販車へ】

社員エンジニアを中心にダカールラリーで得られたデータを車両開発にしっかりとフィードバックし、ランドクルーザー200シリーズの持つ走破性や安全性、信頼性という価値をより一層高め、世界中のお客様に必要とされ、愛される“もっといいクルマ”につなげてまいります。

【コメント】

◆トヨタ車体 取締役社長 岩瀬 隆広

新たなチームでチャレンジし、3連覇を達成することができたことを大変うれしく思います。

応援していただいたファンの皆様や、ご支援いただいたスポンサーや関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、3連覇に向けて心ひとつに全力で挑んだチームメンバーにも感謝します。

世界で最も過酷なラリーと言われていたダカールラリーで3年続けて勝利できたことにより、ランドクルーザー200シリーズの走破性や安全性、信頼性を実証することができました。今後もラリーで得られた成果を「もっといいランドクルーザーづくり」に活かして、世界中のお客様に喜んでいただけるクルマづくりを一層進めて参ります。今後も引き続きご声援をお願いいたします。

（チームメンバーのコメント）

◆チーム代表 林 正敏（トヨタ車体 常務役員）

私どもの造っているランドクルーザーで、社員参加の手作りチームが、3年連続、市販車部門で優勝できましたことは、我々がやってきたクルマづくり、チームづくりが間違いなかったという結果だと思います。今年のTLCは社員ドライバーや社員エンジニアの起用という新しいチャレンジに取り組みましたが、チームメンバー各々が自分の役割をしっかりと果たして、栄冠を勝ち取ってくれました。これも皆様のご声援のおかげです。ありがとうございました。

◆チーム監督 角谷 裕司（トヨタ車体 総務部広報室）

昨年の初監督のときの優勝にも増して、今回の優勝はさらに大きな喜びが込み上げました。3連覇に向けたこの1年間のチームメンバーみんなのハードワークが、素晴らしい結果で報われたという嬉しさと安堵の思いでいっぱいです。いつも暖かく応援し支えてくださっているスポンサーやファンの皆様をはじめ会社の仲間感謝いたします。

◆市販車部門優勝 343号車ドライバー ジボン・ニコラ

個人的には7年ぶりに優勝ドライバーになることができました。今回の勝利はTLCのチームワークによるものという気持ちが強いです。改めて、チームの一員として市販車部門3連覇が獲れたことを嬉しく思います。

◆市販車部門5位 342号車ドライバー 三浦 昂（トヨタ車体 総務部広報室）

チームが3連覇を達成することができ、とても嬉しく思うとともに、初の社員ドライバーとしてダカールラリーを完走することができ、安堵しています。まだまだドライビングスキルの未熟さを感じる場面もありましたので、今後もトレーニングを重ね、さらなる高みを目指したいと思います。チームの優勝も自分の完走も、多くの方々からのサポートがあったからこそだと感じています。ありがとうございました。



市販車部門優勝を達成したTLC343号車
(ジボン／ギャルサン組)



ゴールポディウムで優勝を喜ぶTLC

【参考1：参加台数と完走台数】

	部 門	クラス	参加台数	完走台数	完走率
4 輪	市販車 <small>(量産車にロールバー・大容量燃料タンクなどの「安全に走る」ための装備を追加した車。主要部品の交換が禁止されている。)</small>	ガソリン	1	0	0%
		ディーゼル	10	6	60%
			11	6	55%
	改造車		100	60	60%
	小 計		111	66	59%
	2 輪		136	84	62%
	クアッド (4 輪バギー)		45	23	51%
	カミオン (トラック)		55	41	75%
	合 計		347	220	63%

【参考2：過去の成績】

開催年	1995-1998	1999-2004	2005-07	2008	2009-11	2012-13	2014	2015	2016
使用車両	ランドクルーザー-80	ランドクルーザー-100			ランドクルーザー-200				
成績	市販車ディーゼルクラス 優勝7回	優勝 ^{*7}		大会中止	優勝 ^{*7}	2位	優勝	優勝	優勝
備考	アラコとして参戦 ^{*6}		2005年大会よりトヨタ車体として参戦						

*6 2004年10月にアラコ(株)車両部門がトヨタ車体と事業統合

*7 ガソリンクラスを含む市販車部門で6連覇達成



おかげさまで、会社創立70周年。みなさまに心から感謝。

